

UNMANNED

無人駅の芸術祭／大井川

2024公式ガイド

OFFICIAL GUIDE BOOK

おかえりなさい、
わたしの感性。

集落の春とアートに出会う。

大井川流域各所
(静岡県島田市・川根本町)

2024年2月10日(土)
～3月17日(日)
[37日間]

無人と呼ばれる場所に生きる人々、息づく風土



UNMANNED無人駅の芸術祭／大井川2024を開催できましたこと、関わってくださった全ての方々に感謝申し上げます。過疎の進行とともに、大地を耕し、森を守り、大井川の恵みによって生きる、そうした生活様式が成り立たない社会になりつつある現代において、無人駅を現代社会のキーワードと捉え、第1回展となる芸術祭を2018年に開催してから今回が7回目の開催の運びとなりました。

この間には日本全体が災害やパンデミックなど様々な困難に見舞われ、社会の在り方が一変しました。当地域も、大規模な台風被害や芸術祭をお手伝いくださった方々のお別れなど様々な出来事がありました。それでも、どのような局面においても、芸術祭会期を超え地域とアーティストを結びつけ続けてきたのは、無人と呼ばれる地域に住む人々の生活の豊かさ、アーティストが地域をあらわすことの可能性を信じているからです。

静岡県の真ん中に位置する島田市と川根本町は、急流を間ノ岳から一気に駿河湾へと滑り落ちる全長168kmの大井川沿いに位置します。時代の変化の中、無人駅、耕作放棄地、空き家など人がいなくなることで生まれた場所がたくさんあります。そこには郷土史には載ることはないけれど、固有で美しい地域の生きた証が存在しています。アーティストの予測不能な視点によって、それらは「新たな価値」として可視化され、来訪者たちと共有されていきます。地域とアーティストはお互いへの尊敬、

共に抱く喜びを分け合っていきます。アートが地域に媒介することにより消えゆく記憶がアーカイブされ人々の心に刻まれていく。この社会的交換こそが私たちが芸術祭を行う目的であり、アートの可能性だと考えます。この交換は金額では計り知れない気持ちの交換。その過程で生まれた絆が会期を超え地域の日常に様々な化学反応をもたらしてはじめています。アート回廊づくり、耕作放棄地そのものがアート作品になっていったり、アーティストが地域とのハブに変容しつつあります。確かに人は減っていく。減っていくから地域は消滅するのか。我々はそんなことはないと言えます。現代社会が、効率化、スピード化の先で捨てていくもの、数値や既存の価値の中で“お荷物”的存在になっていくもの。アートによりそれは日本全体にとっての新たな価値となり無人と呼ばれる地域がひらいていく姿は1つの奇跡と呼ばれるかもしれません。我々はこの希望のプロジェクトの歩みを止めることなく進めていきます。

総合ディレクター／
NPO法人クロスメディアしまだ
大石歩真・兒玉絵美



UNMANNED 無人駅の芸術祭／大井川 2024

会期 2024年2月10日(土)～3月17日(日) / 37日間

観覧時間 10:00～16:00(一部会場は休館あり)

会場 大井川流域各所[静岡県島田市・川根本町]

抜里エリア(島田市川根町抜里)・島田エリア(島田駅前中央通り、島田市川越し街道)・

金谷エリア(代官町駅、日切駅、KADODE OIGAWA周辺)・川根本町エリア(川根本町立三ツ星小学校、青部地区)

参加アーティスト=19組

東弘一郎 / LEE ISOO / Instant Coffee / 上野雄次 / 内田慎之介 / かずさ / 形狩りの衆 / 木村健世 / 小山真徳 / 佐藤悠 / さとうりさ / 獅子の歯ブラシ × 女子美術大学 / 泰然 + きみきみよ / TAKAGIKAORU / 中村岳 / ヒデミニシダ / 前田直紀 / 森繁哉 / カ五山

【主催】NPO法人クロスメディアしまだ(静岡県島田市日之出町4-1-1F「C-BASE」内) 【総合ディレクター】大石歩真・兒玉絵美

【支援】アーツカウンシルしずおか

【助成】公益財団法人 福武財団「アートによる地域振興助成」・公益財団法人朝日新聞文化財団・島田市「アートによる地域づくり推進事業助成」

【協力】静岡県・島田市・川根本町・抜里エコポリス・一般社団法人島田市観光協会・大井川鐵道株式会社・和信化学工業株式会社・片川工務店・北斗建材株式会社・株式会社クリーンライ・であい農園・有限会社青島セメント店・株式会社寿電機(順不同)

公益財団法人 福武財団



UNMANNED 無人駅の芸術祭の今

2018年よりはじまった当芸術祭。アートによる地域づくりとして開催を重ねるごとにアーティストと住民との、芸術と地域の関わりは深くなり、会期を超えて様々な分野にしみだしはじめています。農業に関わりながら作品制作を行う「半農半アートプロジェクト」、ハイキングルート作りと作品設置の「ぬくりアート回廊プロジェクト」、今年度は当芸術祭では初となる海外アーティストの滞在や大学生のショートインターン受け入れなど、地域の日常に多様な人の関わりしろを作り、それは芸術分野を超え、農業、コミュニティ維持等様々な分野に及んでいます。私たちは地域の土台作りが何より大切だと考え、芸術活動を“地域”で行うことの可能性を感じます。それは人の数の問題ではなく、地域への誇りという質の問題。年間を通じて遠方から何度も来てくれ、地域の方に家族のように受け入れられているサポーター、茶業を本気で考えるようになったアーティストなど、住んでいなくとも、共に地域の一員と言える仲間が各地に増えています。



イベント情報



1 2月10日(土) 15:00～(オープニングパーティーは16時～)

上野雄次×まつる×オープニングパーティー



芸術祭開幕を「まつる」でお祝いしよう!
開幕初日に抜里の象徴的な場所に1本のフラッグを立てる。竹の切り出し、運搬、立上げまでを集落の人々で行うことで、大井川流域の人々と暮らしを言ひ、芸術祭開幕の狼煙をあげる。鑑賞後はぜひオープニングパーティーにも参加しよう。

【場所】抜里地域交流センター(島田市川根町抜里546)
【予約】なし 【参加費】2,000円

3 2月24日(土) 13:30～

森繁哉による「抜里版・竹取物語」

出演:松村知紗・森繁哉 企画・構成:巫座(かんなぎざ)



必見! 芸術祭という場から舞踏・芸術の起りをあらわす。
古来より日本芸能にあっても、集落内の「裏山=能的場」と「河原=歌舞伎の場」は芸能活動を促し、そのことを醸成していく創造地であった。こうした伝統的な芸の発生を、集落空間が生み出して現代の芸術的活動に変換して、その作品を「集落=舞踏場」と位置付ける。芸術祭という場から、舞踏・芸術の起りを考える。

【場所】しまの竹やぶ(抜里エリア) 【予約】なし

5 3月2日(土) 12:00～13:30

TAKAGIKAORU×お茶会「抜里のひととき」



TAKAGIKAORU×作品×お茶時間を楽しもう
作品がどのように育っていくのか。茶畑の集落だからこそ作品が育つ1年間をお話できる時間「抜里のひととき」を開催。半農半アートプロジェクトで収穫したお茶「Nukuri no hitotoki」をTAKAGIKAORUの器で楽しみながら話す濃密な時間。

【場所】元鈴木家(島田市川根町抜里1092)
【予約】あり*先着6名 【参加費】2,000円

※半農半アートプロジェクト...抜里地域において、収穫をやめた茶畑をアーティストが集落の人々と共に再生、商品作りを行うプロジェクト。

6 3月2日(土) 10:00～、18:00～

アート×ガストロノミーリズム!

ふじのくに旬を食べ尽くす会×芸術祭

大井川流域のアートと食をめぐろう!

〈昼の部〉アートと楽しむ大井川流域ツアー(ガイドと大井川流域のお弁当付き)

〈夜の部〉島田市「磯藤」にて大井川流域の食を堪能する旬の会を開催。

昼、夜の部通し参加の方大歓迎!

【集合場所】(昼の部)JR島田駅北口 (夜の部)磯藤 【定員】各回20名 【予約】必要
【参加費】(通し参加)16,000円 (昼の部のみ)8,000円 (夜の部のみ)8,800円

8 2月11日(日)、18日(日)、23日(金)、24日(土)、25日(日)、3月9日(土)、16日(土)

芸術祭オフィシャルガイドツアー(ウォーキング)



抜里エリアをガイド付きで歩いて巡ろう
総合ディレクター大石歩真・兒玉絵美と主要エリアを歩いて回るガイドツアー。作品の成り立ちや地域をご案内。

【集合解散】川根茶ぬくり園(11:00～約1時間)
【参加費】12,000円(お弁当・ガイド付き)
【予約】必要

2 2月23日(金) 13:30～

「集落地図を描こう」みんなの集落遊び



子ども達集まれ! 集落で遊ぶ
民俗建築研究者である早川知子氏、音楽家・舞踊家の松村知紗氏と共に抜里集落を歩いてさまざまなポイントで絵を描いてワークショップを開催します。楽しく集落を体感しよう!

【場所】ヌクリハウス(島田市川根町抜里930)
【予約】なし

4 2月25日(日) 13:30～

赤坂憲雄による「大井川常民大学の開校記念公演」



民俗学の視点から芸術と地域を考える
芸術祭の開催を重ねる中、「無人」から始める「有」への展望を促していく実践的テーマを模索してきた。集落がその基礎体力を養いながら、他地域との連携を図りながら、本質を見据え芸術との関係を探り、そうした学びと活動の実践こそが芸術であるということに基づいた地域づくりの場をひとつの芸術活動にしていこうための道筋を探る。民俗学者赤坂憲雄を迎えての開校記念公演、森繁哉、大石歩真による記念対談を開催。

【場所】ヌクリハウス 【予約】必要 【参加費】1,000円
【内容】第1部:「地域学への誘い」赤坂憲雄 13:30～
第2部:「開校記念対談 集落から芸術を観る」森繁哉・大石歩真 14:45～

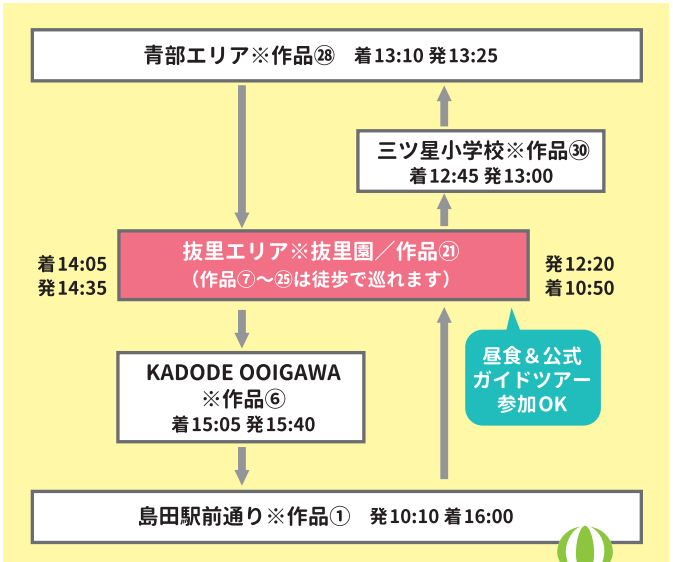
7 2月11日(日)・18日(日)・23日(金)・24日(土)・25日(日)
10:10～※各エリアでの乗り降り可能

芸術祭オフィシャルアート周遊バス(専用車)

バス(専用車)で楽々と作品を巡ろう! ガイドツアーも参加できる

島田駅前通り発着で一日かけて芸術祭エリアを周遊する専用車が便利! 島田駅前作品を鑑賞したら主要エリアの抜里へ。昼食&公式ガイドツアーを楽しんで! 午後は川根本町エリア&金谷エリアへを經由します。もちろん途中の乗り降りOK!

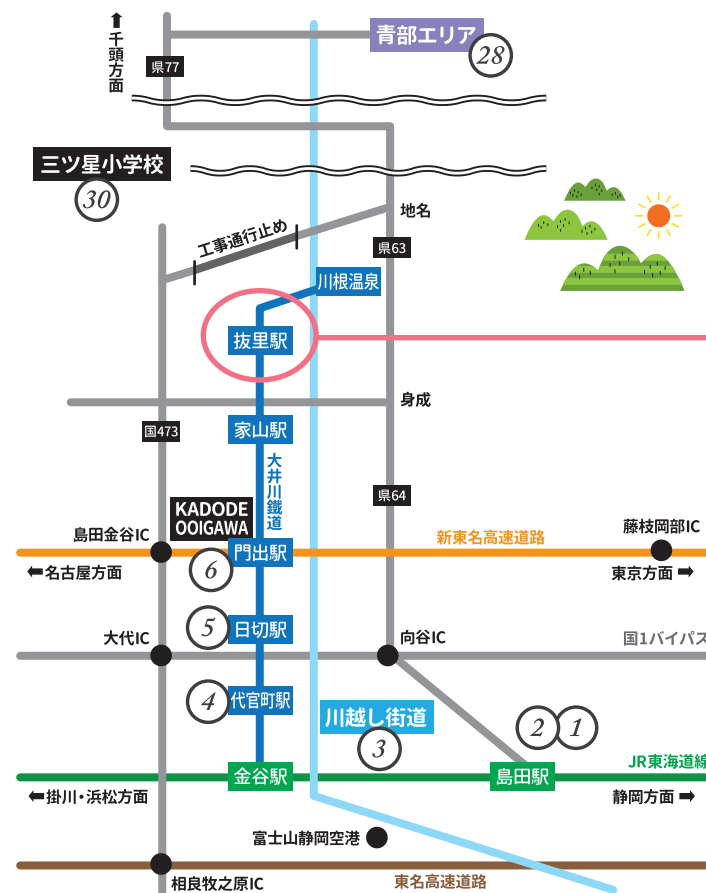
【集合解散】島田駅前通り旧岡むらのぼる前(島田市日之出町2-4)
【参加費】3,000円(お弁当、ガイド付き)
【予約】必要 ※空席があれば当日乗車可



交通案内

台風15号被害の影響で交通機関や一般道に不通が見られます。必ず事前に確認のうえ来訪ください。

- 車利用: 東京IC → (新東名約2時間) → 島田金谷IC → <芸術祭エリアへ>
名古屋IC → (新東名約2時間) → 島田金谷IC → <芸術祭エリアへ>
- 電車利用: JR東京駅 → (東海道新幹線約1時間) → JR静岡駅 → (東海道線約30分) → JR島田駅Or金谷駅
JR名古屋駅 → (東海道新幹線約1時間) → JR掛川駅 → (東海道線約15分) → JR金谷駅Or島田駅
※JR金谷駅で大井川鉄道へ乗換がJR島田駅等でレンタカー → <芸術祭エリアへ>
- 飛行機利用: 就航先 → 富士山静岡空港 → (直通バス25分) → JR島田駅



●大井川鉄道は現在、川根温泉笹間渡駅⇄千頭駅は運転をとりやめています(マップ上の路線も川根温泉までを表記)。公共交通機関でお越しの際は、時刻表などを必ず事前に確認のうえ来訪ください。
●川根本町方面は家山駅から町営バスが利用できます。三ツ星小学校会場は「島田掛川信用金庫前」下車、青部エリアは「青部駅」下車。



時刻表:川根本町バス



抜里エリア (7 ~ 27)

【車利用】
新東名:島田金谷ICより約20分
国1バイパス:向谷ICより約30分

時刻表:大井川鉄道

【公共交通機関利用】
大井川鉄道:金谷駅より約40分(880円)
バス:島田駅から約30分で家山駅(300円)
家山駅より徒歩orレンタサイクル

時刻表:コミュニティバス

アート巡りの拠点はここ

【芸術祭インフォメーション】 Atelier&Guest houseヌクリハウス

芸術祭を通じアーティスト達が滞在した施設をリノベーション。集落の方々、アーティスト、宿泊の方々など、多様な人々が出会い交流するアートと地域のハブ拠点拠点として機能しています。会期中にはイベントや講座も開催されます。

静岡県島田市川根町抜里930 / TEL:0547-39-3666 / 開館:10:00～16:00 ※宿泊予約は施設HPより



最新情報は公式サイト & 各種SNSから

<https://unmanned.jp>



公式サイト



公式LINE



公式Instagram

問い合わせ

UNMANNED無人駅の芸術祭/大井川 事務局 NPO法人クロスメディアしまだ
静岡県島田市日之出町4-1-1F「C-BASE」内 TEL:0547-39-3666 MAIL:info.unmanned@gmail.com



01

島田・島田駅前通り

☑前田 直紀

土が焼かれて“やきもの”になる。通常の“やきもの”としての展示空間と“やきもの”になりきれない生(ナマ)の塊のインスタレーションの空間。海外での制作経験を経て、土地と自身がつながる感覚を作品に問う。陶芸の制作者としての表現、空間が土纏う瞬間。
3/2(土)には、同空間にて、華道家上野雄次とのライブパフォーマンスを開催。

土纏～tsuchi.matou～

〈設置場所〉島田駅前通り
(旧岡むらのぼる 島田市日之出町2-4)



Naoki Maeda
1977静岡県藤枝市生まれ
藤枝市陶芸センター元館長、
現在駿河の工房匠工務長
静岡を拠点にフランス、イタリア、
フィンランド、チェコ、ハンガリー、
中国、台湾など、さまざまな
国で作品発表や国際的なア
ーティストインレジデンス参加など
現地での制作も続けている。
陶芸をコンテンツと捉え、陶芸
をツールとした活動を行う。

02

島田・島田駅前通り

前田直紀が作陶した生土に、上野雄次が花いけを行う唯一無二のライブパフォーマンス。陶芸家と華道家、予測不能な2人のセッションは必見!
※参加費はドリンクオーダー制 ※入場は先着約20人

3月2日(土)19時～

“生”土を纏う二人

〈実施場所〉旧岡むらのぼる

—前田直紀×上野雄次ライブパフォーマンス—



☑カ五山 加藤力・渡辺五大・山崎真一

大井川を挟んで、駿河側の川越し街道の川会所における「渡る願い」と、遠州側の大井川鐵道日切駅における「願いをつなぐ」の2作品を展示する。歴史的な交通の要所である両岸の展示を通じ 連続と続く人と人とのつながりや願いに思いを馳せたい。

川越・渡る願い 日切・願いをつなぐ

〈設置場所〉川会所・日切駅



RikiGoSan
カ五山(リキゴサン)は、加藤力・渡辺五大・山崎真一の美術作家によるアートプロジェクトユニット。代表は加藤力。3人の名前から一文字ずつをとり命名。各々の作品性を維持しながらも三位一体となり、アートを媒体として地域社会の活性化を目指す「ゆるやかな共同体=協働体」である。

03

島田川越し街道



川会所は国宝重要文化財等保存・活用事業島田宿大井川川越遺跡街道舗装整備工事に伴い、一部平日に通行規制があります。ご了承ください(土・日・祝は休工のため通行可)

05 金谷・日切

04

金谷・代官町

☑木村 健世

無人駅文庫 代官町

〈設置場所〉代官町駅ホーム

無人駅を形作るもの。線路、ホーム、架線、風、それと人々が駅に残した記憶の欠片。インタビューによって集めた代官町駅にまつわる記憶それぞれを一篇の小説として捉え、あらすじを記した文庫目録を駅のホームに置く。数々の物語の断片はどんな駅の風景を見せてくれるだろうか。



Takeyo Kimura
2001年アートユニット「フタボンゴ」を結成、以降「まち」にさまざまなプログラムを挿入し、場を様々な角度から見つめながら「まちづくり」の一歩手前の行為としてのアート」を多数手がける。
近年は人の暮らしが紡ぐストーリーを聞き取りによって集め、場を文庫として捉える作品を展開している。

06

金谷・門出

☑佐藤 悠

おはなしの駅門出

2月10、11、12、23、24、25日のみパフォーマンス実施

〈設置場所〉KADODE OOIGAWA TOURIST INFORMATION おおいなび入り口一枚の画面に絵を描きながら、その場の全員で即興の物語を作るパフォーマンス「いちまいばなし」を実施して、たくさんのおはなしを作ります。「何がどうした?どうなった?」と参加者へ順番に物語の続きを問いかけていき、答えてもらった内容を一枚の絵に描き足していくと、誰の想像もつかない「おはなし」ができあがります。



Yu Sato
一見何も無いところから、表現が紡ぎ出される現場を作っている。滞在制作、パフォーマンス、レクチャー、ワークショップ、鑑賞プログラムなど、様々な表現場や機会に応じて発表している。

Photo:Kichiro Okamura
参加無料・実施時間約15分。
3人以上の希望者が集まれば、そこから「おはなし」が始まります。

07

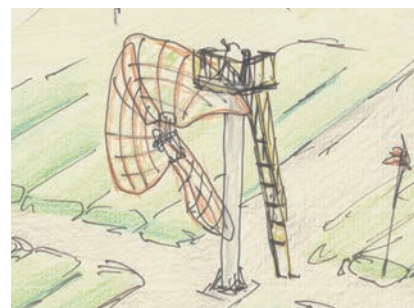
抜里エリア

☑東 弘一郎

茶畑のサイクリスト

〈設置場所〉しまの空き地

鑑賞者は防霜ファンからの視点で茶畑を一望でき、自転車漕いで風車を回すことができる。また、作品の体験をすることで鑑賞者自身が景観の一部となる。高速道路を降りて茶畑だらけの風景に一気に変わると、島田に入ったという実感が湧く。整えられた茶樹の独特な形状と、それを見守る防霜ファンが立ち並ぶ風景はとても美しい。作品を通じて地元の人々と訪れる人々の間での対話を促し、この美しい茶畑の風景をさらに愛してもらえうきうきとなればと思う。



Koichiro Azuma
1998年東京都生まれ
自転車と金属を組み合わせて、主に動く立体作品を制作している。サロン・ド・ブランタン賞受賞、宮田亮平賞受賞、第24回岡本太郎現代芸術賞(TARO賞)入選、主な展示:大地の芸術祭2022、落山風物詩(台湾)など

08

抜里エリア

☑LEE ISOO(イ・イス)

Flying Ddobok

〈設置場所〉抜里駅舎

代表作である Flying Ddobok を立体化した作品。集落の中心である抜里駅に作品を設置することで、誰もが経験する出会いと別れを象徴化する。5センチの小さな Ddobok の展示と、日常の随所に贈り物のような出会いが隠れていることを表現する。
同時に約1か月にわたる滞在時に島田市～川根本町の延べ200人がパネルに描いた「10x10 project」も展示。200人の作品とイ・イス自身の作品を一同に展示し一つの作品とする。



Lee Isoo
ドローイングと色、造形で人生の物語を表現する作家。一緒に暮らしていた Ddobok という子犬を見送り、彼女の絵には子犬が登場することになる。芸術は少数者の賛成ではなく、皆が享受しなければならない権利であり人生だということを自分の作業と人生の時間で表現する。そしてこれが全部統合されて“作業”となるのだ。

10

抜里エリア

☑上野雄次

宮田歩×パラグライダー茶会

〈設置場所〉大井川上空



大井川に吹く風を知り尽くす、パラグライダー世界チャンピオンである宮田歩とのコラボパフォーマンス。大井川上空にて茶会を開催。動と静の究極の前人未踏のパフォーマンス。※風や天候の都合により開催日や時間の変動あり。

<スペシャル参加> 宮田 歩 Miyata Ayumu

子供の頃から空を飛ぶことを夢見て育ち、学生時代にハングライダーを始め、スカイスポーツの世界に、世界中で開催されたワールドカップに参加転戦。

11

抜里エリア

まつる / 2024～オープニング～

2月10日(土)15時～

〈設置場所〉堂山

開幕初日に抜里の象徴的な場所に1本の旗を立てる。竹の切り出し、運搬、立上げまでを集落の人々で行うことで、大井川流域の人々と暮らしを言祝い、芸術祭開幕の狼煙をあげる。



Yuji Ueno
1967年京都府生まれ。勅使河原宏氏の展覧会と「創造行為」という破壊がなければ生まれないという言葉に衝撃を受け華道を学び始める。国内のほか世界各国で創作活動を展開。詩人、写真家、ミュージシャン、工芸家等とのコラボレーション多数。

14

抜里エリア

☑形狩りの衆(代表/山本直)

顔の家

〈設置場所〉天野邸



ライフマスクのワークショップを通じて、参加者が互いの顔に石膏を塗り、はがし、壊さないように顔型をむき出す。相手への思いやりや信頼、緊張と不安、安堵と喜び。さまざまな感情が行き交う場面に立ち会ってきた。「今生きているお互いをいとおしみながら、今を残す」活動。

Shape hunters (Principal/Tadashi Yamamoto)

2019年結成のアートユニット。地域住民とライフマスクを製作するワークショップを通じ、人々の存在証明としてアーカイブを目指すとともに型取り技術の伝承を試みる。記念碑的な役割から個人と社会をつなぐ装置へ役割を変化させたパブリック・アート。その新たな可能性を無名性のキーワードで探求する。



09

抜里エリア

☑Instant coffee

A NOOK

〈設置場所〉大井川河川敷

NOOKのインスピレーションはバンクーバーのアパートのキッチンから生まれた。家庭的な日常が公共空間に溶け込み、作品であると同時に社会的相互作用のための起爆剤としての役割を果たす。抜里の美しい茶畑、密林のような山を回りながら流れる大井川を見ながら、この全てを一緒に鑑賞できる場所を設けたいと考えた。廃材を活用し、材本来の形を活かし、既存のNOOKを新たなサイズと形で表現した。未来のための道を考え、親睦を深める場所を提供する。



Instant coffee
ソウル、カナダのトロント、バンクーバーを拠点とするアーティスト集団。安価に大量生産される象徴としてインスタントコーヒーを名とし、唯一無二でお金だけでない価値をアートワークとして提示、生み出すことを行う。インスタレーション、イベント、ワークショップを通じ、公共の相互作用、対話、アイデア等、交換を可能とする空間と状況を作り出す。

12

抜里エリア

☑:内田 慎之介

NUKURI HEROES

〈設置場所〉ヌクリハウス

2018年よりはじまった当芸術祭において、作家との交流を重ねてきた「ヌクリハウス」。この棟をキャンパスに、実在する抜里の人々が登場人物となり、抜里を襲う脅威と戦うヒーロー漫画を2023年の本芸術祭にて制作開始。本年完成した棟のお披露目となる。作品は一階と二階部分に展開されている。



Shinnosuke Uchida
島田市出身。2015年から壁に巨大な漫画を描く独自のパフォーマンス「マンガライブペイント」を始める。現在では海外からイベントのオファーが来るようになり国内外で活動。マンガのオチをその場の投票で決めるなどライブペイントならではの新しい漫画の表現を目指す。名前はペンネーム。

13

抜里エリア

☑かずさ

毎週木曜～日曜にパフォーマンス実施

碗琴道島田流

〈設置場所〉清次のちゃべや

滞在中印象的だった、土砂によって削られた山肌と倒木、壊滅した道と新たに作られた道。山頂から見下ろす鶴山の七曲り。簡単ではないけれど、寄り合って考え、盃を交わせばまた笑うことができるということ、集落で出会うものが教えてくれている。滞在中に経験したことから「農の作法」「茶飲み話の作法」「宴会の作法」をキーワードに組み立てた「碗琴道島田流」を制作する。碗琴道は、2010年より制作している食器を用いたパフォーマンス作品。何もなしどころに食器を選び、並べ、音を鳴らし、しまい、立ち去るまでを創作した作法に則って行う。何度でも回復する日々の営みの中にある喜びを表現したい。



Kazusa
自身のナラティブと向き合いながら、主にインスタレーション、パフォーマンス、テキストなどによる表現活動を行う。個人的な家族間、人間関係、愛における問題は誰しもがそれぞれ向き合い続けるものであり、作品を通してそれぞれの個人の思考を駆動させるようなものとなることを願い発表している。

Photo:Yasuyuki Kasagi(左)、インベカマリ★(右)

15 小山 真徳

15 てのひら (設置場所)茶畑

山と山に挟まれた大井川流域では、対向車が譲り合わなければ通れない狭く険しい道が多々ある。滞在制作の際、対向する軽トラの運転席から、軽く右手を掲げる仕草でこちらに合図をおくるやさしい手のひらを何度も見た。沿線から、温泉の露天風呂から、茶畑から。遠くからでもその小さな手のひらは存在感がありわたしは自然と目で追った。何気ない手のひらが旅の上では無性に恋しい。わたしはいつまでも変わらない普遍的な情愛のサインである手のひらをこの土地に作ろうと思う。



Masayoshi Koyama
小山真徳は旅人の視点を中心に制作をしている。「よそ者」として訪れた土地において生活者が普段見出すことのない置き去りにされたものたちに、深い共感を寄せる。手製の小さな土産品から、伝説上のモノたちが具現化したような巨大な立体まで表現は多岐にわたる。声高ではないが、古くから土地に存在する信仰と祝祭に気配を纏いつつ、うらぶれた場所にそれら作品は出現する。

21 獅子の歯ブラシ×女子美術大学

21 風土のボディランゲージ (設置場所)ぬくり園



創作獅子舞ユニット「獅子の歯ブラシ」の指導のもと、女子美術大学の学生10名が抜里の風土にふれ、発見したことを身体で「語る」試み。学生たちは「獅子の歯ブラシ」による現地でのワークショップを通し、気になった場所で発見した「価値」をさまざまな形のボディランゲージで表現し、共有。「獅子の歯ブラシ」は抜里の風土と触れ合うためのメディアとして、新たな獅子舞を創作し、地域の家いさを角付けしながら練り歩いた。また、30年前に地域で作られた大獅子が発見され、学生たちによって修繕の後、復活の舞を演舞した。会場では、これら3つの活動成果を映像展示する。

22 TAKAGI KAORU

22 内なる器は際限なく育っていくはずだ (設置場所)元鈴木家

内なる器は際限なく育っていくはずだ。複数年にわたる集落との交流の中で、作品づくりの域を超え、茶業にも関わりをはじめている。空き家に残る生活の面影、その空き家をひらいてくれた持ち主の気持ちの変化。そういう器の裏側のようなものが作家を通して変容していく過程を表現する。3月2日には、この水引作品の中でお茶会を開催。



TAKAGI KAORU
粘土による器のほか、水引を使った立体造形をつくる。器とは有形無形のものを湛える(たたえる)ことで、ものの変化や潜在的な物語を捉えることができる道具になると考えている。したがって食器にとどまらず、さまざまなもの(ときには家屋や人の内面)のなかに器を見出す。

23 抜里の茶畑に色を咲かせる

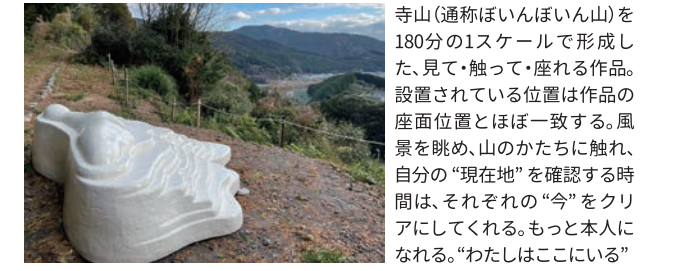
23 抜里の茶畑に色を咲かせる (設置場所)東原の茶畑

私たちは自身で見ている日々の景色を意識することもなく暮らしている。収穫されなくなった茶畑が増えていく。手入れをされなくなると茶畑はそこだけ森のようになり荒れていく。その森のような茶畑にみんなで「色」を咲かせ自分の手で風景を変える体験を2023年11月に約40名で開催した。



16 さとうりさ

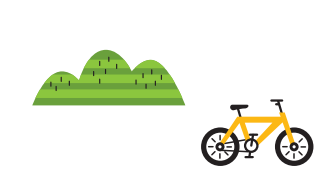
16 本人 (設置場所)ばいんばいん山



寺山(通称ばいんばいん山)を180分の1スケールで形成した、見て・触って・座れる作品。設置されている位置は作品の座面位置とほぼ一致する。風景を眺め、山のかたちに触れ、自分の“現在地”を確認する時間は、それぞれの“今”をクリアしてくれる。もっと本人になれる。“わたしはここにいる”

17 地蔵まえ3/サトゴシガン

17 地蔵まえ3/サトゴシガン (設置場所)5班集会所
「パブリックアートもお地蔵さんのように地域になじむのは可能か」というテーマでご家庭でオブジェ作品を預かってもらうプロジェクト。果たしてパブリックとプライベートの境界線はどこに?



18 地蔵まえ4/縫い合わせ

18 地蔵まえ4/縫い合わせ (設置場所)駅近くの茶畑内
これまでの「無人駅の芸術祭」で制作されたオブジェ作品が、地域の方々の協力を得てバルーン作品となった。オンライン対話と配送を駆使した協働制作は、私たちにどれくらいの達成感を与えてくれるのだろうか。またそれは見る人へ伝わるのだろうか。※会期中の土・日、天気の良い日に出現。

19 くぐりこぶち

19 くぐりこぶち (設置場所)しまの竹やぶ
現在では禁止となっている野鳥を獲るための罠「こぶち」を、生きものたちのエネルギーが交差していた場所と捉え、やぶのなかにインスタレーションを制作。「くぐりこぶち」を通り抜けたとき、ほんの少し世界が変わって見えるかもしれません。



20 メダムK

20 メダムK (設置場所)天野邸
「黄金町バザール2011」(横浜市)で制作されたこの作品は、かつて違法飲食店で働いていた女性たちを意味している。人のかたちをしていても、女性を示す記号的要素はない。娼婦という職業に対する一辺倒のイメージから自由になれたらという考えが制作のきっかけとなっている。

Risa Sato
美術作家。東京藝術大学大学院美術研究科デザイン専攻修了。抽象的でありながらも親しみを感じさせる大型のソフト・スカルプチャーを、屋内外を問わず公共のスペースに出現させ、作品を通じたコミュニケーションの可能性を考察する。ワークショップを通じた共同制作なども多数。



24 ヒデミニシダ

24 境界のあそび場II/ちゃばらのカーテン (設置場所)茶畑

茶畑の一角にひらりと漂う大きなカーテン。下には円形のベンチが設けられ、訪れる人々の休息の場となる。茶畑の空に漂う柔らかな布地の向こうには世界の輪郭が浮かび上がり、はたたく裾から見え隠れするその端々に、世界の細部がきらめく。

25 境界のあそび場IV/音の要塞

25 境界のあそび場IV/音の要塞 (設置場所)ばいんばいん山
大井川流域の地域では、古くから対岸との物流、人の行き来、そして情報の交換のために様々な手段が工夫されてきた。この要塞は、「交信」の努力をしてきた人々へのオマージュ。自動車での行き来が容易になり、大量の情報を瞬間のうちに交換できるようになったいま、我々の感官はこの要塞からどんなメッセージを発信し、目の前の風景からどんな返答を受け取るのだろうか。

Hidemi Nishida
建築的な手法をベースに、風景との対話を生む環境インスタレーションを手がける。周囲の環境や、意識しなければ見えにくい事象に視線を向け、世界の広がりや美しいディテールに触れる作品を制作。麻線となった線路をデジタルフロッターでアーカイブするなど様々な手法を用いて活動。

28 中村 岳

28 遡及空間(そきゅうくうかん) (設置場所)達おう丘

ほとくの作品は彫刻ではない。空中に自由に絵を描きたいと思いたい作品を作る。空中をキャンバスに見立てて、縦横無尽に絵を描く。絵描きは常に絵画の支持体を意識しており、枠組みで切り取って空間を認識している。抽象絵画ではグリットを利用して切断作用によって空間を作ること考える。立体物を実体として見ているよりも、平面として脳内変換している。

Takeshi Nakamura
北海道に生まれ育つ。北海道は日本文化の辺境であり、伝統に触れるチャンスが少なかったと自覚し寺院などにカルチャーショックを感じた。日本に生まれながら自身の中から失われてしまった「文化の再構築」を目指すよう創作。日本建築と絵画の関係を検証することにより、立体作品を制作。東京の美術大学で油絵を学ぶ。



26 森 繁哉

26 大井川常民大学 (設置場所)ヌクリハウス 2月25日(日)13時30分~

芸術祭の開催を重ねる中、「無人」から始まる「有」への展望を促していく実践的テーマを模索してきた。集落がその基礎体力を養いながら、他地域との連携を図りながら、本質を見据え芸術との関係を探り、そうした学びと活動の実践こそが芸術であるということに基づいた地域づくりの場をひとつの芸術活動にしていきたいための道筋を探る。民俗学者赤坂憲雄を迎えての開校記念公演、森繁哉、大石歩真による記念対談を開催。

27 抜里版・竹取物語

27 抜里版・竹取物語 (設置場所)しまの竹藪 2月24日(土)13時30分~

古来より日本芸能にあっても、集落内の「裏山=能場」と「河原=歌舞伎の場」は芸能活動を促し、そのことを醸成していく創造地であった。こうした伝統的な芸の発生を、集落空間が生み出していく現代の芸術的活動に変換して、その作品を「集落=舞踏場」と位置付ける。芸術祭という場から、舞踏・芸術の起こりを考える。2月24日公演。

Shigeya Mori
1947年山形県出身 山形県在住 民俗学者 舞踊作家 「巫座」代表 東北芸術工科大学教授、田園学園学長歴任後、作家活動に入る。日本古来の身体技法を現代芸術に昇華した数多くの舞台作品で、現代日本の最高の舞踏スタイルを確立したとして、フランス、ドイツなどに招聘される。インタークロス賞など、受賞歴多数。著書「生命と舞踏」など多数。

30 泰然+きみきみよ

30 あかりのありか(OI) (設置場所)三ツ星小学校

紙飛行機の「こーき」が、蒸気機関車の「じょーき」と出会い、奥大井湖駅を目指して大井川を遡上する題材童話「あかりのありか(OI)」は、物語のみで絵がない。島田市・川根本町の子どもたちとともに、LEDと積み木で絵を「読書感想光」として造形し「絵本」を完成させる。

Taizen+Kimikimiyō
泰然:造形作家、文化庁文化・芸術子ども育成推進事業登録芸術家、九州産業大学人間科学部子ども教育学科兼担建築都市工学部住居・インテリア学科准教授。各地の美術館・小学校・芸術祭等において、国立青少年教育振興機構体験活動事業「積み木であかりのワークショップ」を実施。きみきみよ:童話作家、日本児童文芸家協会正会員、きみきみよの童話の部屋主宰。著書「にゃんたとおつきさま」(文芸社)、「森のぶらんこ」(日本新業)、「ぼっちゃんおにいちゃんになる」(児童文芸)。

